



山田 真

「正しい熱の測り方」

「朝日新聞」子ども診療室からの六月十六日、七月十日を種見し少し急ななることがありますので「筆を止めておきます」
 ことな書き出で始まるおす

手紙をいたいたのは七月の下旬のことだ。
 「文中、三九度、四〇度など具体的な体温の記載がありますが、この体温測法を用いた体温計の「正がふれ」

高めに出来る電子体温計

ん、従来種には水銀体温計が用いられていますが、最近電子体温計が普及してきています。電子体温計には実測式と予測式の二種類がありますが、特に予測式のものについてかなり注意を払ってほしい

わがわが手紙を下さって電子体温計の問題についてご教示いただいたのは、大阪経済大学の西山先生ですが、よく自身でも電子体温計が信頼できなくて自分の診療室では旧型の水銀体温計を使っているという

とあり、改めて目を開かれて、思いと自分の直感が正しかったのだとある満足感で、まして、昨年五月に私が測定されました。しかも「予測方式の電子体温計は二つの特徴があります。西山先生の研究は朝日新聞

や読者テレビでもとりあげられていることですが、ほくほくつにも知りませんが、三七度を一分で超す

と学校のプールへ入れても、えなかつたり保育園から帰されたら、いったんごがある中で、使用体温計の種類によって五分の差が出るというの

「有線型」は、健康な子どもが電子体温計のおかげで「有線型」は、健康な子どもが電子体温計のおかげで「有線型」は、健康な子どもが電子体温計のおかげで

毎週火曜日に掲載します